

第4学年 道徳学習指導案

日時 平成23年6月30日(木) 3校時
場所 4年2組 教室 (第2校舎 3階)
指導者 4年2組 担任 佐々木 智子

人や社会や自然とかかわり、気づき、考え、実行する子どもの育成
～言語活動の充実をめざして～

1 主題名 「人命第一」 【生命尊重 3-(1)】

2 資料名 人間愛の金メダル (『4年生のどうとく』、文溪堂)

3 主題設定の理由

(1) 児童について

本学級の児童は、明るく元気で活動的であり、心身ともに健康的な毎日を送っている。

児童は、生命が大切であることは十分に分かっている。しかし、なぜ、生命が大切なのか、明確に答えられる子はあまりいないと考えられる。それは、身近な人が亡くなったときの身を切られるような悲しみや大切なペットが死んだときの心にぽっかり穴があいたような悲しみ、逆に、小さな生命が誕生した喜びなどといった生命の大切さを深く考えるような体験に出会うことが少なく、生命や生きるということをも自分自身の問題としてとらえる機会もあまりないからである。

そこで、生命がどうして大切なのか、じっくり考える指導の場が必要である。また、自分の人生に夢や希望をもてない児童も多い傾向がある現代社会において、命の尊さと同時に、児童が生き生きと生きることのすばらしさについても感じ取ることが重要であると考えられる。

(2) ねらいとする価値について

本主題は、学習指導要領第3学年及び第4学年の内容「3 主として自然や崇高なものとのかかわりに関すること」の(1)「生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にする。」に基づいたものである。

生命が何にも変えられない大切なものであるという認識は、だれにでも漠然とあるであろう。しかし、二者択一の極限場面に遭遇したらどうなるであろうか。人命救助か、それとも自分が今までの人生をかけてきたことか、思い悩み、それでも多くの人は「人命第一」と答えるであろう。それは、一度生命が失われると、二度とよみがえらず、生命はかけがえのないものだということを知っているからである。

しかし、児童に生命の大切さを考えさせ、理解させる機会は少ない。そこで、かけがえのない生命について深く考えさせる指導の場が必要である。

(3) 資料について

本資料は、次の4つの場面で構成されている。

- 1 悪天候の中、東京オリンピックのヨットレースがスタートする。

- 2 スウェーデンチームのキエル兄弟が、前に行くオーストラリアチームのヨットを追い抜こうとしたとき、バランスを崩したオーストラリアチームの選手が海に放り出されてしまう。
- 3 キエル兄弟は、レースより人命が大事と判断して選手を助け、再びレースを続ける。
- 4 レース後、賞賛を受けたキエル兄弟は「ヨットマンのルールを当たり前を守っただけだよ。」と語る。

実話を基にした話である。キエル兄弟がレースよりも人命を優先してオーストラリアチームの選手を助けたところに、児童が着目しやすく、二人の兄弟にもあったであろう葛藤や迷いに共感しながら生命の尊さを考えることのできる資料である。

(4) 指導にあたって

ねらいとする価値の理解を深めるために、次のような支援をしていく。

まず、導入の段階では、日常の生活場面や他教科との関連を図り、学習への意欲を高めたい。資料提示の際には、「読み聞かせ」の手法を取り入れ、登場人物の会話や行動に、より共感しやすい雰囲気づくりをする。また、互いに話しやすくなるように、教室の場の設定を工夫する。

展開前段では、心情円や役割演技・動作化などを用いながらキエル兄弟の気持ちに十分共感させたい。自分や友達の意見を比較しながら聞き合えるように、ネームプレートを用いて意見交換をさせ、自分の考えをより確かなものにさせていきたい。

展開後段においては、ワークシートにまとめることで児童自身の今までの経験について振り返ることができるように、書く時間を十分に確保したい。

終末の段階では、「心のノート」や新聞記事を紹介しながら生命の尊さを感じ、生命あるものすべてを大切にしようとする心情を育むことでねらいとする価値に迫りたい。

《 言語活動の充実のための方策 》

※ 児童に自分の考えをもたせるために！

◆ 資料提示の工夫・・・【聞く】こと

- ・ どの場面での、どの登場人物の、どのような行為や思いについて、自分なりの気づきや考えをもてたかが的確に分かるように、「読み聞かせ」の手法で行う。

※ 自分の考えを基に書いたり話し合ったりするために！

◆ 展開での工夫・・・【書く】【話す】こと

- ・ **心情円(心情グラフ)**や**ネームプレート**を用いて自分の思いを表現し、どうしてそのような気持ちや考えになっているのか、その根拠や理由付けをしながら発表する場を設定する。(話す)
- ・ 中心発問の場面では、ワークシートに自由なことばで表現できるように、**吹き出しの形式**にするなどの工夫をし、書く活動の時間を確保する。(書く)
- ・ **小集団グループ(3人チーム)**の中で、自由に意見交換し、互いの意見を聞き合いながら「**な～るほどトーク**」をする。(話す・聞く)
- ・ 自分と友達の意見の比較や自分の考えの変化などを視覚的にとらえやすくするために、**ネームプレート**を用いて板書の工夫をする。(話す・聞く)

4 本時の指導

(1) ねらい キエル兄弟の気持ちを考えることを通して、生命の尊さを感じ取り、生命あるものを大切にしようとする心情を育てる。

(2) 準備物 場面絵、ワークシート、ネームプレート、心情円、新聞記事

(3) 展開

	学習活動と内容	予想される児童の反応	○教師の支援・★評価
気付く	1 オリンピック出場の選手について想起する。 ○ 出場にむけての選手の努力について	(選手はどんな努力をするのだろう?) ・ 毎日、一生懸命練習する。 ・ 人生をかけてがんばっている。	○ オリンピック出場には、大変な努力が必要なこと、周囲の期待も大きいことなどを想起させ、資料への興味関心を高める。
考える	2 「人間愛の金メダル」の話を聞いて話し合う。 ○ ヨットレースが始まったときのキエル兄弟の気持ち ◎ 顔を見合わせたキエル兄弟が考えていたこと ○ ヨットマンのルールとは何か	・ みんなが期待している！優勝するぞ。 ・ 悔いのないレースにしよう。 ・ 助けるのは、おれたちの役目じゃない。 ・ もう少しで1位に追いつけるのに…。 ・ このままでいいのだろうか。 ・ 放っておけば死んでしまうかもしれない。 ・ レースより人命が大事だ。 ・ 敵でも、相手が困っていたら助ける。	○ 読み聞かせの手法で資料提示を行うことで、場面の臨場感を出し、登場人物への共感を高める。 ○ 感想を出し合うなかで、話し合う場面を焦点化し、発問の構成を工夫する。 ○ ネームプレートや心情円を用いて自分の心情を表すことで、キエル兄弟の気持ちに共感できるようにする。 ○ ワークシートを用いて、自分の思いを自由に書いたり、役割演技でキエル兄弟の葛藤を強く感得したりできるようにする。 ○ ネームプレートを用いて、自分と友達の見解を比べながら考えを深められるようにする。 ★(評) 生命の尊さを感じ取り感動をもつて感じ取ることができたか。

見 つ め る	<p>3 今までの自分を振り返る。</p> <p>○ 生命の大切さについて考えたこと</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 生命は何よりも大切にしなければならぬものなんだな。 ・ 家で飼っていた犬が死んだときとても悲しくて生命の大切さを感じた。 ・ 妹が生まれたとき、うれしくて、生命を大切にしたいと思った。 	<p>○ 書く時間を十分に確保し、ワークシートにまとめることにより、自分自身についてじっくり振り返ることができるようにする。</p> <p>○ 振り返りが困難な児童には、「心のノート」等、自分を振り返りやすい材料を用意しておく。</p> <p>★(評) 生命あるものを大切にしようとする気持ちを高めることができたか。</p>
高 め る	<p>4 教師の説話を聞く。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・ 新聞記事を紹介し、本時のねらいとの関連を図りながら今後の実践への意欲付けを図る。